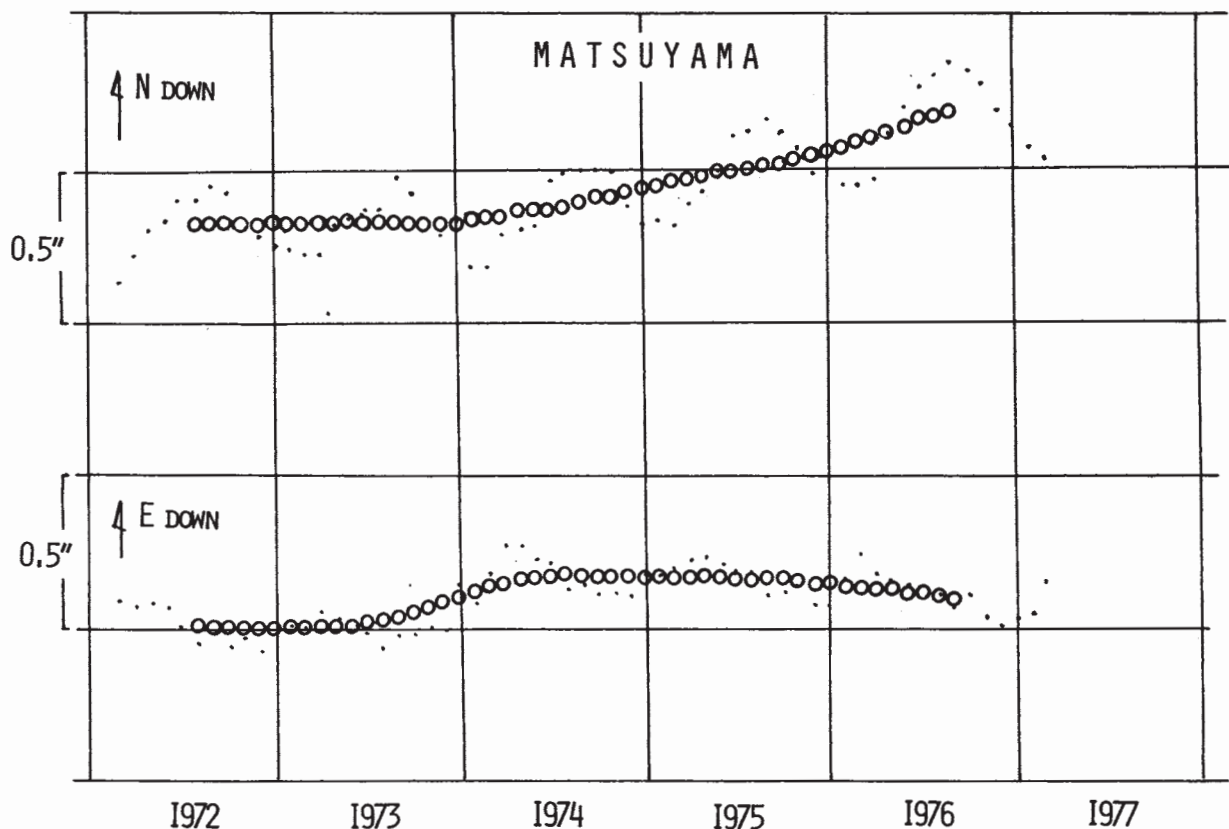


5 - 6 松山地方の地殻変動 (2)

Crustal Movements in Matsuyama District(2)

東京大学地震研究所 松山地殻変動観測所
Matsuyama Crustal Movement Observatory,
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

前報 (予知連会報, 第 14 卷 (1975), 95 - 100) に引続き水管傾斜計の観測結果を報告する。NS 成分 (NE - SW, NW - SE 両成分より合成) は 1960 年代後半よりほぼ一定値を保ってきたが, 1974 年初頭のころから N 下りの傾動を示すようになり, 現在までに約 0.4" を記録した。EW 成分に格別の動きは見られない。



第 1 図 松山における土地傾斜永年変化 (水管傾斜計読取値から合成した NS, EW 両成分の月平均値 (●) とその移動平均値 (○) ; 1950 - 1974 年期の観測結果については前報参照) 。

Fig. 1 Ground tilts at Matsuyama (monthly mean value in the NS and EW components (●) and their running mean value (○); data for the period, 1950-1974, are seen in the previous report (Report, CCEP, vol.14 (1975), 95-100).